



ともに伸びる馬室っ子 ～あせがきらきら馬室っ子～

令和5年8月29日

9月号

鴻巣市立馬室小学校
電話 541-0578

馬室小だより



「よく見、よく聞き、よく話す」

元気で充実した2学期にしよう！

校長 齋地 満

子供たちが元気に登校し、2学期がスタートしました。今年の夏休みは、久しぶりに旅行や帰省など楽しく有意義に過ごせたことと思います。一方で、猛暑日が多く、家や室内で過ごす時間も多かったのではないのでしょうか。夏休み当初に行われた「夏休み子ども勉強会」では、地域の方々に見守られ、多くの6年生が熱心に学習へ取り組むことができました。馬室小学校学習支援隊の皆様、本当にありがとうございました。

この夏、高校時代の剣道部の仲間と、恩師のもとを訪ねました。なかには、十数年振りに会う者もいたのですが、自然と話が弾みました。時を経ても楽しく充実した経験を共にした仲間は、かけがえのない宝です。学校のよさの一つだと改めて感じました。

さて、その際に秩父神社を参拝したところ、「三猿」に出会いました。三猿といえば、5年生が林間学校で訪れた日光東照宮の「見ざる 言わざる 聞かざる」が有名です。手で目や口、耳を塞ぐ仕草から「幼いうちは、影響を受けやすい。



だから、悪いことは見聞きせず、悪い言葉も使わず、よいものだけを与えよ。良いものを身に付けておけば、悪いものに対しても正しい行動ができる。」という子育ての教訓が示されています。(解説文より抜粋)ところが、秩父神社の三猿は、大きく目を見開いた猿口を大きく開いた猿 大きな耳を立てている猿が寄り添っています。「よく見、よく聞いて、よく話そう」という教えがあり、お元気三猿として親しまれているそうです。まるで正反対のようですが、どちらの作者も左甚五郎といわれていることや秩父神社が先に建てられたと知り(徳川家康が社殿を寄進した。)、驚きました。大河ドラマの中で家臣団と共に乱世を生き抜き、成長していく家康の姿から想像すると、「現状や状況をよく見て、仲間の話を聞き、自分の考えをしっかりと話して、問題や課題を解決していくことが大切である」というメッセージが伝わってきました。



令和の日本型教育では、子供たちが持続可能な社会の担い手となるよう、多様な考えや価値観に触れ、情報を共有したり対話したりしながら、共に学ぶ「協働的な学び」が重要とされています。それは、本校の学校目標「ともに伸びる馬室っ子」にも繋がっています。2学期は、お元気三猿にあやかり「よく見、よく聞いて、よく話そう」を合言葉に、子供たちと教職員が共に充実できるよう努めていきます。

★ お願いとお知らせ ★

- 「早退」の連絡につきましては、確実な引継ぎのため、連絡帳にてお願いします。また、けがや疾病以外の早退や下校時のお迎えにつきましては、必ず保護者の方が担任までお声がけください。
- 登校時と下校時に正門からの車による送り迎えは、安全面からご遠慮いただき、プール脇の駐車場にてお願いいたします。ただし、事情がある場合は、ご連絡ください。